



Nishimae Elementary School News Letter 平成26年10月31日

# 西前小だより

横浜市立西前小学校

Web:<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nishimae/>



## 竹の節のように

校長 末松 隆一郎

晴れた日の優しい日溜まり、その中を時折走り抜けていく冷たい風……。秋は深まり、木々も色づき、銀杏、もみじの葉が舞い止まぬ頃、北国からは冬の便りも届き始めています。晩秋から初冬へと、季節の変わりめを肌で感じる頃となりました。

OSF、前期終業式・後期始業式、オープンスクール、そしてN&Nと、ここ一ヶ月半の中で、子どもたちは多くの成長の「節目」を迎え、それぞれの学年に応じた素晴らしい姿を見せてくれました。今日は、この「節目(節)」についてお話ししたいと思います。

「竹」は、古くから日本を象徴する植物の一つです。「竹取物語」の一説に「よろずの事に使いけり」とあるように、扇子や提灯、傘、その他様々な生活用品がしなやかな竹から作られました。また、松・竹・梅の三つを併せて松竹梅(しょうちくばい)と呼び、縁起物として称するなど、私たちの生活の中に根付いている植物です。また、青々とし凜として伸びる様子から、榊(さかき)とともに、清浄な植物の一つとされています。

これらのことから、竹がすくすくと青い空に向かい真っ直ぐに伸びる様子は、子ども達の成長の姿にも似て例えられます。しかし、竹は初めからひたすら真っ直ぐな成長の姿を見せるわけではなく、竹の子の段階から少しずつその成長の過程に「節」を作って伸びていきます。言い換えると、「竹は節を作って、それを起点に、より高く成長をする。」のです。そして、「節」があることによって、強風による横からの強い風を受けても、雪の重みに反り返っても、折れることなく、しなやかに、しっかりと竹は伸びていきます。竹が強くしなやかに伸び続ける生命力の源が「節」です。強い風や雪の重みにも耐え、弓のように曲がりながらも、また元に戻り空に向かって伸びていけるのも「節」があるからなのです。



一つ一つの「節」を成長の起点として、更に高く伸びていく姿、それは子ども達の成長の過程においても同じだと思います。一つの目標に向かってみんなががんばったこと、辛抱強く取り組んだこと、失敗や敗北で辛かったこと、そのような経験一つ一つが、子ども達の、そして人間としての成長の「節」になるのではないかと思います。

10月29日(水)に行われた西中との小中一貫教育推進のN&Nふれあいコンサート、まさに9年間の育ちの「節」となるこの行事も、今回で第9回目となりました。小学生は勿論ですが、中学生の歌声は、どの学年・クラスも大変素晴らしかったです。特に、中学3年生のハーモニーは圧巻でした。参加した児童・生徒みんなが全力を出し切り、お互いに良い刺激を受け合う中で、この行事そのものの進化・発展に、そして、参加した全員の心に、今年も素晴らしい「節」ができたと思います。これをもとに、子ども達には、更にたくましくしなやかに成長して行ってほしいと思います。

